

第9回 筑後川学識者懇談会 議事要旨

日時：令和4年5月30日（月）15：00～16：30

場所：国土交通省筑後川河川事務所 第1、第2会議室

出席者：（委員）：楠田委員長、古賀委員、小松委員、駄田井委員、平松委員、松井委員、
矢野委員（徳田委員：欠席）

（以下○：委員意見）

（事務局）：筑後川河川事務所長、他

（以下●：事務局発言）

議事1) 筑後川水系河川整備計画の変更について【資料-2】

・事務局より「筑後川水系河川整備計画の変更」について説明

（主な質問・意見）

○H29 水害時は大量の流木・土砂が発生した。H29 時はダムの上流に流木が留まったが、それがダム下流に押し寄せていたら網場は耐えられたか。

寺内ダムはロックフィルだが流木が洪水吐きを塞ぎ、オーバーフローしていたら大変だった。

●非常用洪水吐きから放流されるような状況になった時に網場やダム施設に対してどのような影響が想定されるのか、その対策についても、安全にダムを運用していく観点からも今後、検討していきたい。

○寺内ダムの利水容量を一部振り替えとあるが、容量振り替えを行って渇水には影響ないのか。

●振り替えについては、まず関係利水者において、将来の水需給や渇水等を考慮し、今後の水利用に関する支障の有無を事前に検討していただいた上で、振替協力の可否をご判断いただくものと考えている。そういった意味で、利水者にとって影響がない範囲での振り替えになると考えている。

○霞堤の機能を有する箇所について、地元からの要望等あるのか。

●今後、佐田川沿川に対し丁寧に説明していきたい。その際に意見を伺う予定。

○寺内ダムの治水容量を増やすとのことだが、事前放流では賄えないのか。

●今回の計画には、事前放流を見込んだ計画とはなっていない。

事前放流は、降雨予測の精度にも課題があり、不確実性も大きいため、今後、技術的な課題がクリアされていく中で、計画として見込めるような事になれば、検討していくことにな

ると考えている。

○河川環境への配慮については、生態系も大事だが、3年ぶりに鵜飼いが再開された。伝統的・文化的な行事にも配慮が必要ではないか。

●佐田川流域に利活用で配慮するようなものがあれば配慮したい。

議事 2) 筑後川水系河川整備計画（変更原案）について【資料-3】

・事務局より「筑後川水系河川整備計画（変更原案）」について説明

（主な質問・意見）

○寺内ダムの有効活用として、早い段階でダム放流量を増やしておくことで、ダムを最大限効果的に使うことが可能だと考える。そのような検討も必要ではないか。

●できるだけ洪水初期に貯留しないようにするためには、別途トンネル洪水吐き等を新たに設置するなど大規模な対策が必要になる。今回は、整備計画対応を優先して行うため、そこまでの対策は行わないが、委員ご指摘の点については、必要性は認識しており、全国的な動向を把握しつつ、引き続き調査検討していきたい。

○DXについて、メタバースなどを用いて住民に対し見える化していくとの認識でよかったか。先ほど霞の話もあつたが、バーチャルで見せるなど行ってもいいとおもう。以前は水理実験だったが模型は大変であるため、デジタルで適応できる便利と思う。

●DXについては、取り急ぎ定期縦横断測量について点群データを活用し整理している。先生がおっしゃる活用方法についても検討していきたい。

議事 3) 筑後川水系河川整備計画（変更原案）に対する意見聴取方法について【資料-4】

・事務局より「筑後川水系河川整備計画（変更原案）に対する意見聴取方法」について説明

（主な質問・意見）

○霞堤の機能を有する箇所に関する説明については、丁寧をお願いしたい。冠水すると農業に影響が出る。

●丁寧に説明していきたい。